

リモコンボートの利用用途とメリット

深浅測量業務での利用(迅速性)

河川縦横断測量、ダム等貯水池の堆砂測量や貯水量計測、海岸・港湾等の堆砂測量や(但し外洋等では注意が必要)、水路及び浚渫測量等の深浅測量業務全般での利用が可能です。従来の深浅測量に比べ、**50%の作業時間短縮**となります。

一回の洪水で改変する河床や、日々変化する水底の計測に対し、作業時間の短縮によって同条件での測深断面がより多く計測できることから、精度の高い河床洗掘・堆砂のメカニズム把握に寄与するものと期待されます。

さらに、**操縦者がミニボート等に乘船しながら遠隔操作**することにより、リモコンボートの**陸揚げ作業を省略**でき、作業の更なる効率化が図れます。横断幅が広い河川等への対応や、**リモコンボートの安全管理**においても、ミニボートで追跡しながらの操縦が効果的です。



災害時調査業務での利用(安全性、迅速性、柔軟性)

土砂崩れダムや天然ダム、津波被害時の河川・港湾等の水底状況調査等、危険箇所での調査・計測に利用できます。災害調査では、迅速な対応や、より危険性を増す現場での対応となることから、リモコンボートの活用によって迅速で安全な作業が期待できます。また、必要な調査範囲を陸上からの遠隔操作でランダム航走で測深するなど、現場条件に対応し、臨機応変な測深が可能です。

特殊現場での利用(柔軟性、迅速性)

水深の浅い水域では直接測定が必要ですが、ため池や貯水池などではロッド計測不能な危険箇所があります。リモコンボートは水深0.5m程度まで対応可能であることから、浅い水域でも間接測定による調査・計測が可能です。

調査用リモコンボートによる災害調査

安全性、迅速性、柔軟性の効果を発揮

調査用リモコンボートが有するメリットは、災害調査で大いに活用することが可能です。

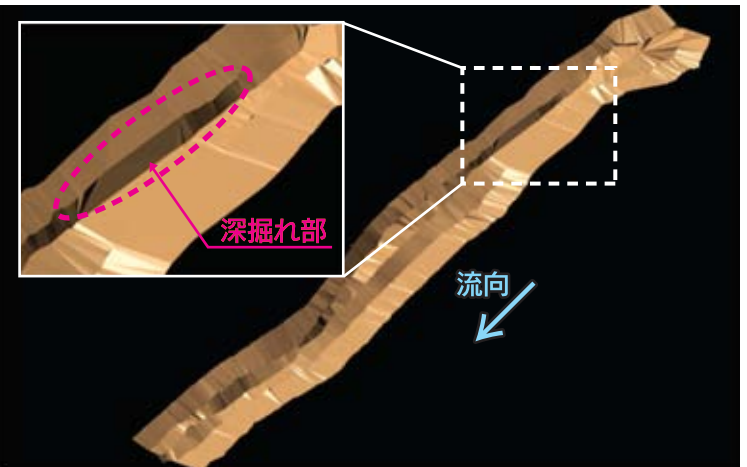
災害調査では、迅速な作業遂行が求められる中で、現場条件や被災状況に応じた調査が必要です。また、災害箇所では既設護岸の崩落・倒壊の危険性や根固工の流出による変移などのため座礁の危険性を有しています。そのような中で、被災状況を的確に把握することが求められます。

調査用リモコンボートは、横断方向上での深浅測量はもとより、縦断方向での河床状況、河床洗掘箇所や深掘れ箇所などのランダムな軌跡の測深が可能となり、安全で迅速、柔軟な調査が実現します。

さらに1.0mメッシュでの測深能力を活用すると、より精度の高い河床状況の三次元モデル化が可能となります。



リモコンボート測深軌跡図(遠隔操作によるランダム航走)



ランダム航走(遠隔操作)による測深データを活用した河床の3次元モデル化



株式
会社

ウヌマ地域総研

TEL 018-863-5809 FAX 018-863-5022

お問い合わせ先 秋田本社 リモコンボート担当